おめでとうございます
特級技能検定合格者２名

生産現場の管理能力を問われる特級技能検定試験に今年(平成 23 年度後期試験)東京のめっき業界から 2 名が合格した。共に訓練校修了生で東京のめっき業界では特級技能士の有資格者が４名となった。

今回合格した２人は訓練校で２級技能士補を取得し卒業後 2 級技能士を取得、その後１級へと進み、１級取得５年後の特級技能検定受検資格に達して試験に挑戦、2 年かけて個々に勉強するとともに会社やグループでの勉強なども積み重ね晴れて特級技能検定試験に合格した。

難しい試験といわれるだけにどのように勉強されたのか、お２人に、入社から特級技能検定合格までの勉強、後進の参考となるようなアドバイスなどのお話をお願いした。

特級技能検定の試験の概要は、①工程管理②作業管理③品質管理④原価管理⑤安全衛生管理及び環境保全⑥作業指導⑦設備管理の分野での管理・監督の知識を問われる内容で、学科試験（50 問　2 時間）　実技試験（設問 10　3 時間）で構成されており、合格基準は学科６割５分実技６割以上正解とされている。「2 級、1 級までの現場作業の技術的知識というよりは、経営者、管理・監督者の知識が問われるということで、規模に関わらず組織の幹部、特に後継者の育成に役立つものではないかと思う」と合格者の八幡義一氏は述べている。

八幡義一氏（35）　城東支部･八幡鍍金工業㈱　常務取締役

「八幡鍍金工業㈱入社」

大学卒業後、1 年半愛知県の㈱サーテックカリヤ様にて研修させて頂いた後、弊社篠崎工場に戻り、3 年目の 25 歳の時に訓練校に入校させていただきました。第 32 期生。

「特級技能士を目指しての勉強」

2005(H15)年、1 級技能士取得。2011(H23)年･22 年度後期、特級実技合格、2012(H24)年･23 年度後期、特級学科合格･特級技能士取得

当時東京都では特級めっき技能士は 2 名のみで､受験者もわずかとなっており、このままでは特級の制度自体が無くなってしまいかねない。めっき技術の継承を行う上で非常に重要な役割を担う技能教育が廃れてしまうのは業界としての損失であるとのことで、姫野理事長（当時）よりお話を頂戴し受験させていただくことになった。

一年目、2010 年の夏頃から「特級技能士のための管理・監督の知識」（教科書）を中心に読み、あとは過去問を解いていく形のごくごくオーソドックスな勉強方法を行った。2011 年の１月試験直前の能

力開発協会の講習会で総復習をして１月末に試験という流れであった。過去問を試験形式で解いていくと６割位は最初から取れるので感覚としては、受ける人が居ないだけで意外と簡単な試験なのではないかと誤解してしまった。一年目は実技のみ合格という結果に終わった。

二年目、2011 年の前半は東日本大震災、電力受給問題・・・などいろいろとあり、殆ど時間がつくれず、申込を済ませた秋になってもなかなか勉強が手に付けられない状態であった。ただ一年目と違ったのは、組合で場所を提供して頂き夜７頃から勉強会を受験者５名で月に数回行ったことでした。内容の殆どは試験問題の解説を行い知識と情報を共有したことである。(大部分は環研の斉藤先生によるリードである）参加者同士が自分の得意な分野において、インターネット、書籍、経験からの知識・情報を持ち寄る形で問題の解説を行い短時間で効率良く理解を深めることができた。

１ 月の能開協の講習会では、組合での勉強会で解決できなかったことを質問したが、講師の先生ですら即答できずに後日解答という形で返事をいただいたこともあった。

理解が深まるほど、１ 年目とは違った難しさに気付くようになった。結果、学科合格、技能士取得となったが、まだまだ勉強が必要と実感している。実力というよりも同業他社の仲間との組織力で取らせて頂いたという思いが強い。

姫野前理事長から、京王電化の山本部長様と私の２名は、訓練校の卒業生では、はじめての特級技能士だとのことでお褒めの言葉をいただいた。

「後進への助言、アドバイス」

東京都は一級技能士の取得者が多く、非常に優秀な人材の宝庫だと思う。特級過去問、教科書がどこで手に入るのかなど、情報不足の今までとは違っている。受験資格をお持ちの１級技能士の皆様が取り組みやすい環境が整備されつつある。今後は取得に向けての絶好のチャンスではないかと思っている。訓練校の仲間に声を掛けて大人数で受けるとより有利であると感じた。まず、申込書を出すことから始めてはどうでしょうか。

山本豊氏（49）　西部支部･京王電化工業㈱製造部　部長

「京王電化工業㈱入社」

大学を出てしばらくバンドマンとして活動し“そろそろ諦めて職を探そう”と、めっきがどんな仕事なのか全く知らなかったが、現在の姫野会長が社長のとき快く採用していただいた。入社 2 年目(1997(平成 9)年)に訓練校に派遣された。訓練校 28 期生で 1998(平成 10)年卒業、同年に２級技能士を修得、その後、2005(平成 17)年に１級を修得した。

姫野会長が、業界の中で特級技能士が少ないことから、もっと合格者を出そう、特級を受検できる有資格者はどんどん取りなさいと提唱していただき、組合事務局の人にたずねたら、１級取得後５年実績を積めば受検できるということで挑戦することにした。もともと姫野会長が教育の一環として東京で資格取得を広げよ

うと提唱されたことが良いきっかけとなった。

「特級技能士を目指しての勉強」

2011(平成23)年、22年度後期試験　受検3ヶ月前から過去問を参考に関係書類で勉強。受検 1 ヶ月前の講習会に参加。加えて市販の特級向け参考書で勉強。初年は実技のみ合格した。

受験2年目は、社内で排水管理を担当させてもらい、実践と理論を並行に勉強。再度講習会に参加し、前年の疑問点を出来るだけ理解した。2年目(2012(平成24)年･23年度後期試験)で学科合格した。

普段の仕事上の経験(めっき作業の実践と生産効率の理論、設備管理、品質保証部在籍時の経験、ISO関係修得時の知識、社内外の講習会、若手の指導等)が役立ったと思う。

「後進への助言、アドバイスは?」

まず今自分が関わっている仕事・作業を隅々まで理解すること。めっき現場で言えば処理液の組成(濃度、pH、温度、比重等)と役割、付帯設備の役割・構造、電源、生産効率等を充分理解する。

自分の役割が理解できると、周辺作業(準備、段取り、検査、分析、排水等)の必要性・管理も理解しやすくなる。次にはコスト、納期、利益の仕組みにも興味が湧いてくると思う。自分の理解度が充実する分だけ、後輩への指導も的確になると思う。

現場管理、設備管理、生産管理、若い人を教える作業指導、それが全部、実技と学科の項目に入っている。文書上で勉強しないといけない。実践では曲がりなりにもやっていたが、ペーパー上で教え方の手順を憶えないといけない。そういう点では今までやってきたことが当てはまったこともあるが、こういう順序もあったのかと、一から勉強し直さなればいけないこともあった。これらは実際の生産現場の管理にかなり役立っている。

試験の勉強は参考書を読んだが、初めてという内容は一部で、幾つかの単語も知っていたし、実際にやっていることもあった。私の試験合格の振り分けは、実践6割、座学2割、個人勉強2割程度と思う。受検に当たっては、一緒に受ける人たちと勉強の場を設けてもらえた事も力になった。